

令和2年度 自己評価表【最終評価】

鳥取県立鳥取東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。		今年度の 重点目標	1 主体性を身につけた、自ら学び自ら考え自ら行動する人を育成する。 2 社会の中で自らの役割を見つけ、一隅を照らすことのできる人を育成する。 3 困難に立ち向かう逞しさ(克己)、他者を思いやる優しさ(親和)、探究する積極性(進取)を持った人を育成する。	評価結果 2月	
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況 %は生徒・保護者アンケート結果	評価	改善方策
社会貢献に繋がる人間力の育成 1 【主体的に考え、行動させる教育】	①学習・部活動・学校行事の3重を全力で追いかけ、主体的に行動する人を育成する。	○86.1%の生徒が、楽しく部活動に取り組んでいるが、学習との両立ができていない生徒は71.5%である。 ○東高祭等の行事において、クラスやグループ等、係で目標を共有し、その達成のために全員で協力して取り組むことができた。 ○生徒会執行部、ボランティアサークルが中心となって、様々なボランティア活動や交流事業に積極的に参加している。 ○役割を与えられたり指示をされた場合は、責任感を持って取り組むことができるが、主体的に取り組もうとする意識を育成する必要がある。	○学習と部活動との両立ができていない生徒が増えている。 ○自分のためだけでなく、クラスや学校全体を良くするために、自分の力を生かそうとする。 ○各種ボランティア活動や交流事業、学校行事等に主体的に参加している。 ○教育活動全体で対人関係能力の育成が図られ学校評価アンケート結果が80%以上(前年度75%)。 ○キャリアパスポートの有効活用が図られている。	○学習・部活動・学校行事、地域との連携活動等を、生徒が主体となるように計画・実施する。 ○学校行事等集団での取組をおとして生徒に自分の役割を自覚させるとともに、他者とのより良い関わり方を身につけさせる。 ○各種活動や事業の生徒への広報方法を再検討し、生徒会執行部を中心に取組を進める。 ○ボランティア活動への積極的な参加を推進する。	○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒は全体で72.6%、1、2年生は64.6%である。1、2年生の40.2%が学習習慣・学習方法が未確立である。 ○部活動参加率は93.8%、そのうち90%が楽しく活動していると回答。学習と部活動の両立について、加入生徒の74.5%、保護者の74%ができていないと回答している。 ○コロナ禍の中ではあったが、東高祭等の行事は工夫して実施ができた。また、クラスやグループ・係で目標を共有し、その達成のために協力して取り組むことが出来た。対人関係能力の育成が図れているとの回答は86%であった。 ○コロナ禍のためボランティア依頼は半減。直前で中止になるものもあり、申込者のうちの15%程度の参加となったが、生徒会執行部や委員会が学校周辺を清掃するなど地域貢献活動を行った。	B	○課題の量や内容を工夫するとともに、各教科間で調整を行い、生徒の家庭学習が計画的に行えるようにする。 ○部活動において、引き続き週1日以上休日を設けるなど、さらに多くの生徒が勉強と部活動を両立させることができるよう配慮する。 ○ボランティアの募集がある限り、積極的な参加を促していく。また、校内でのボランティア活動などもボランティアサークルを中心に挙げる。 ○学校行事はもとより、日常の学校生活においても、クラス役員・教科係、清掃活動等、生徒がより主体的に取り組むよう支援する。 ○生徒主体で様々なことに取り組んでいくことができるよう、生徒会執行部と教職員との意思疎通・連携を更に推進していく。
	②品位ある振舞を大切にさせるとともに、他者を思いやる心を育成し、社会の中で「一隅を照らす」ことのできる人を育成する。	○スマートフォン等を、平日1時間以上利用している生徒の割合は約45%、また保護者の50%が適切に使用できていないと感じている。 ○交通マナーの向上を心掛けている生徒は97%であるのに対し、それらの交通マナーに関する苦情が18件、自転車事故が20件と、前年度を上回った。 ○図書館の貸し出し冊数は、前年度比91%であった。工事のため、12月上旬まで3年の教室が遠くになったことが原因と考えられる。(平成30年度5,630冊、令和元年度5,114冊) ○読書を取り巻く活動(ビブリオバトル・蔵書点検)に多くの生徒が関わった。 ○アンケートの実施、各種委員会の活動等によって、自律的な生活や自己管理について実態に即した啓発を行うことができた。 ○問題行動等については、外部機関と連携するなどして学校として組織的に対応することができた。 ○94%の生徒が安心して学べる学校であると感じているが、さまざまな背景や環境の中で不安や心配を抱えたり、自分の希望する進路実現に安心して向かえない生徒がいる。	○スマートフォン等を平日1時間以上利用する生徒の割合が減少している。 ○自転車通学マナーが向上し、苦情件数、登下校時の事故件数が減少している。 ○挨拶・清掃・身だしなみなど品位のある生活が送れている。 ○図書館の新規利用者数や一人当たりの貸出冊数が増加する。	○スマートフォンの適切な使用方法・使用時間について啓発を続けるとともに、講演会等を通して保護者にも実態を知ってもらい、家庭と連携を取りながら指導していく。併せて生活習慣アンケートを行い自律的な生活に努めさせる。 ○自転車のルール・マナーについて、機会あるごとに啓発指導を行うとともに、専門家による講習会を企画・実施する。また、登下校時の立ち番指導等、生徒会執行部と連携を取りながら実施していく。 ○教職員全員が率先垂範し全体が「ぶれない指導」を行う。 ○校舎が遠くても来たくならないような図書館づくりを工夫する。生徒が積極的にかわるような仕掛けを考える。 ○A.Lに結び付く図書館での授業利用を呼び掛ける。	○スマートフォン等の平日利用時間が1時間以上の生徒の割合は54.9%、保護者の47%が適切に使用できていないと感じている。 ○自転車の交通マナー向上を心掛けている生徒は97.7%であった。自転車による交通事故は激減(昨年度20件→5件)したが、交通・乗車マナーに関する苦情は変わらず多い(22件)。 ○身だしなみや言動について、教職員の47%が一致した指導が出来ていないと感じている。 ○生徒一人あたりの貸出冊数は昨年度比1.6倍となった。 ○「総合的な探究の時間」では、理数・探究部と連携を取り計画的に図書館活用ができた。	C	○スマートフォン等の適切な使用方法・使用時間について、実態把握をしながら啓発を続けていくとともに、家庭とも連携を取りながら指導していく。 ○自転車の交通マナーについて、機会あるごとに啓発指導を行うとともに、専門家による講習会を実施していく。また、生徒会執行部と連携を取りながら登下校時の立ち番指導等を行っていく。 ○生徒の実態を学年と分掌とで共有し、連携を密にしながら指導していく。 ○図書委員の活動の場を積極的に設け、探究型学習に適した資料の充実と環境整備を進める。
2 学習指導の充実 【勝負させる授業】	③日々の授業を中心に据え、基礎学力から応用力、さらには正解のない課題にまで主体的・協働的・探究的に取り組む人を育成する。	○保護者への授業公開を実施するとともに、研究授業を6教科で実施した。また、高大接続に関する職員研修を実施するとともにICTを活用した授業に取り組むなど授業改革に努めた。 ○単位制の利点を生かした教育課程の編成について、課題や問題点を整理し方向性を示すことができた。 ○全国模試の目標数値(1,2年SS5以上、3年SS50以上)に対し、3年生は概ね達成できているが、1,2年生については目標に届いていない。 ○「鳥取学」(総合的な探究の時間)、理数科課題研究による探究活動を行っている。	○各教科の授業でICTの活用や授業改革が進み、学校全体で公開授業や研究授業が行われ、職員全体が自己研鑽に努めている。 ○単位制教育課程の編成と評価方法についての研究が進んでいる。 ○全国模試結果が目標数値を超えている。 ○総合的な探究(学習)の時間、理数科課題研究が生徒の課題解決力の育成につながっている。	○研究授業や授業公開、各種研修への参加をすすめ授業改善に努めるとともに、ICTを活用した授業を行うための環境整備を進める。 ○新学習指導要領や大学入試改革の状況を踏まえながら、特色ある教育課程を編成する。 ○課題の質と量を再検討するとともに、生徒の主体性を引き出しつつ、全国偏差値の目標が達成できる授業研究を行う。	○いじめアンケート(2回)や面接指導により、実態把握と組織的な対応を行うことができた。 ○生活習慣についてのアンケート(2回)・HyperQU(2回)・生徒保健委員会・保健だよりなどによって状況の把握・情報提供、及び生活の自己管理について啓発を行うことができた。本年度は特に、新型コロナウイルスの感染防止・感染拡大防止についての啓発を多く行った。 ○新型コロナウイルスによる臨時休校等により年度当初人間関係づくりの困難さやストレスなど、例年に比べて複雑な状況となったが、不登校傾向の生徒に対して、学年と情報共有や支援の協力を積極的に行うことができた。 ○94%の生徒がいじめを許さない学校である・安心して学べる学校であると感じ、評価している。 ○教育相談員・SSW、及び関係外部専門機関とも密接に連携、情報共有し生徒の個別対応に活かした。	B	○新型コロナウイルスの状況把握とそれについての対策の合意と周知に努める。 ○生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるように、一人一人に合った教育活動を支援していく。 ○関係機関と定期的に情報交換を行い、生徒の進路実現のための協力関係を築く。
	④受験は補欠なき団体戦であることを自覚させ、生徒同士がチームとして一丸となって学力向上に取り組む姿勢を育成する。	○各教科から出される課題には84.9%の生徒がしっかり取り組んでいるが、計画的に毎日家庭学習を行っている生徒は全学年で70.1%、1、2年生は61.4%であり、自ら進んで学習する習慣の定着をさらに進める必要がある。 ○自習室利用はたいへん活発であったが、利用マナーについては課題が残っている。	○計画的な家庭学習をしている生徒が77%を超え、自分の学習習慣、方法を身に付けている。 ○学年それぞれに応じてより高い進路目標を持ち、実現に向けて学習に取り組んでいる。	○個別面談やICTを活用して学習習慣の確立につなげるとともに、課題の質や量について工夫し、課題学習のみに頼らない学習スタイルを身につけるよう支援する。 ○自習室の利用マナーを向上させるため、学年や分掌と連携を密にする。	○88%の生徒が課題をしっかりとやり遂げていると回答しているが、1、2年生の約4割は学習習慣・学習方法が確立できていないとしている。 ○スタディサプリ等を利用して学習に取り組むことができた。 ○Google Classroomやスタディサプリを導入することで、課題の提示方法やアンケートなどへの利用、研究が少しずつ進んだ。 ○自習室は感染症対策を行いながらの利用となった。マナーの面で問題となることもあった。 ○計画的な家庭学習をしている生徒の割合は63%→72%。目標数値を下回ったが中間評価時より向上した。	B	○校内模試、実力テストの範囲等を年度初めに示し、生徒自らが計画を立てて学習できるようにする。また、学習活動が向上するよう、それぞれの生徒の状況に応じた課題を提示するよう努める。 ○課題の提示方法や内容など、より効果的な方法を引き続き研究する。 ○自習室利用、マナーについて学年、分掌と連携をとる。 ○進路スケジュールを意識させる。
3 進路指導の強化 【挑戦させる進路指導】	⑤第一志望にこだわらず、目的と目標をもって、将来、社会の中で自分の役割を果たせる人を育成する。	○生徒の進路実現に向けての理解度が、73%程度から84%程度にまで上がり、キャリア教育の効果が表れている。保護者の本校進路指導への評価も高い。 ○学年独自の補講計画もあり、高い進路目標を掲げる生徒は出てきているが、実現させるための取組には改善の余地がある。 ○現役小中学校教諭等を招いての「鳥取東高次世代教師塾」を開催し教育系志望者の意識をより高めた。	○生徒の進路実現に向けての姿勢及び理解度が向上している(学校評価アンケート結果8%以上)。 ○3年間を見とおして各学年の取組が全校で共有され円滑に接続している。 ○「鳥取学」(総合的な探究の時間)、理数科課題研究を深める取組を行う。 ○離大進学を志望する生徒が増えている。	○上位者をさらに伸ばすために習熟度別授業の内容や進め方を検討するなど、進路志望を高く持ち努力し続けるための支援を行う。 ○キャリア教育を全校的取組とするために3年間をおとした「総合的な探究の時間」のプログラムを作成する。また、教員の理解を深める取組を行う。 ○「鳥取東高次世代教師塾」を開講する。	○離大進学を志望する生徒が増えている。各学年の取り組みの成果である。 ○離大向け補講を開始した。2年生でも行うなどの新たな取組を試みている。開始したばかりなので、次年度検証を行う必要がある。 ○生徒の進路実現に向けての姿勢及び理解度は73%→82%。目標数値を下回ったが中間評価時より改善した。 ○「総合的な探究の時間」の系統的なプログラム作成が進んだ。 ○「鳥取東高次世代教師塾」は感染症対策を行いながら実施した。	B	○離大向け補講の実施 ○進路行事1つ1つの意義をその都度意識させる。 ○「総合的な探究の時間」の取組について、職員全体での共有を進める。 ○教育学部希望者の「鳥取東高次世代教師塾」への参加者を増やす。
	⑥効果的な地域連携とPTA活動を推進する。	○夏休みに学校前の天神川の清掃活動を行った。 ○生徒が修立小学校の夏休み勉強セミナーに生徒が参加し、児童の自主学習の手助けをした。 ○PTAの各専門部が活発に活動し、生徒の成長を様々な側面からサポートしている。 ○学校評議員会・学校関係者評価委員会での意見、提言を学校運営に反映させている。	○異校種間連携(小高・中高)や地域との交流がさらに進む。 ○PTA行事に参加する保護者が増加する。 ○外部評価の結果を学校運営に反映できている。 ○学校と地域・保護者が、様々な側面から生徒の成長をサポートできるような協働体制を構築するとともに、学校ホームページを利用するなどPTA活動の広報に努める。	○地域の小中学校の行事に、部活動の一環として生徒や教職員が参加・協力するなど交流を推進する。また、生徒会執行部と近隣地域との交流への他生徒の参加を推進する。 ○学校と地域・保護者が、様々な側面から生徒の成長をサポートできるような協働体制を構築するとともに、学校ホームページを利用するなどPTA活動の広報に努める。	○コロナ禍のために、活動が限定されたが、生徒会執行部や委員会が学校周辺を清掃するなど地域貢献活動を行った。 ○PTA各専門部が可能な範囲で活動を行った。	B	○効果的な地域連携が出来るように実態把握に努めるとともに、生徒会執行部を中心に企画・実施していく。 ○保護者の意見・要望も踏まえながら行事を企画する。
4 学校運営の点検と教育環境の整備 【仕事と生活の調和】	⑦各種広報紙の定期発行や学校ホームページの活用をさらに発展させて情報発信を充実させる。	○学校ホームページに必要な情報を提供するとともに、日々の学校生活の様子を紹介するよう努めている。 ○メール配信システムを活用し、必要な情報を保護者に伝えている。 ○PTA文化広報部が「鳥取東高通信」を年間4回発行し内容も充実している。	○各種広報誌や学校ホームページ等を利用して、学校の取組を積極的に広報している。 ○学校ホームページの更新を組織的に進めるとともに、より有効な活用方法について検討する。また、生徒の個人情報に配慮しつつ、広報誌などで生徒の学校での様子・PTA活動の取組を伝え、保護者のPTA活動に対する意識を高める。 ○メール配信システムを活用する。	○学校ホームページの更新を組織的に進めるとともに、より有効な活用方法について検討する。また、生徒の個人情報に配慮しつつ、広報誌などで生徒の学校での様子・PTA活動の取組を伝え、保護者のPTA活動に対する意識を高める。 ○メール配信システムを活用する。	○学校ホームページの更新やPTA広報誌等により、本校の取り組みや生徒の様子について積極的に発信することができた。 ○PTA文化広報部により「鳥取東高通信」を計画どおり発行した。 ○メール配信システム等を活用し、生徒・保護者への連絡を行うことができた。	A	○学校に関する情報がより伝わりやすくなるよう、ホームページの工夫を行うとともに最新の情報となるよう努める。 ○引き続きメール配信システム等を活用し保護者に必要な情報を提供していく。
	⑧学校業務改善の取組を進め、職員のワークライフバランスを促進する。	○部活動計画、実績を月別に提出し活動状況を確認している。休業日等が十分ではない場合は修正を指示し再度提出を求めている。 ○学校行事等の業務の見直し、軽減化は進んでいる。 ○夏季休業期間中、学校窓口休止日を3日間設けた。 ○月あたり時間外業務時間は平成29年度比で12%減少した。一方で、時間外業務時間が月80時間以上の職員の人数はやや減少したものの延べ人数は増加した。	○月あたり時間外業務時間を平成29年度比で25%削減する。 ○月あたり時間外業務80時間以上の職員の減少。 ○全部活動が部活動に係る方針を守り適切に活動している。	○管理職による部活動の活動状況の確認と部活動に係る方針遵守の働きかけを行っている。 ○学校行事等の準備の簡素化、業務の軽減化。 ○夏季休業期間中に対外業務停止日を設定する。 ○時間外業務時間の多い教職員には毎月半ば頃に時間数を通知し、注意喚起する。	○月別の活動計画書、実績報告書により活動状況を確認し、必要に応じて計画の修正を行っている。 ○新型コロナウイルス感染予防・拡大防止のため、各種行事を中止または規模縮小、実施形態を変更して実施したことで全体的には軽減できたが、計画変更等により準備負担が増したのももあった。 ○時間外業務時間の多い教職員には、毎月個別に通知を発生して注意を促している。12月末時点で時間外業務時間が月80時間を超える職員が1名、月45時間を超える職員が延べ74人。12月末時点での削減率は38%(平成29年度比)である。	B	○現在の取組を継続する。

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]